

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190400663), 法人名 (社会福祉法人杜の会), 事業所名 (グループホーム福井倶楽部), 所在地 (札幌市西区福井4丁目14-18), 自己評価作成日 (令和2年11月30日), 評価結果市町村受理日 (令和3年1月27日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400663-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年12月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福井倶楽部は西区福井の住宅街の中にある民家改修型の1ユニットのグループホームです。自然に囲まれた高台に位置しているため部屋の窓からの眺望は素晴らしく、四季折々の景色を楽しめ、利用者やご家族からの評判も良いです。町内会に加入しており地域の方との関係も良好で収穫物等いただいたりしています。今年度は町内会の班長を務めさせていただきました。また、利用者の皆様が安全で自立した生活が送れるよう系列施設のPTの指導による個別のリハビリを毎日行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内から西に10°程度離れてた藻岩山と手稲山系に挟まれた丘陵地帯に立地しており、市内方向に向けた丘陵地であるため景観が素晴らしく、眼下には市内から石狩平野、遠く暑寒岳まで一望でき、またスーパーやコンビニも同じ町内にあり、静かだが生活の利便性が高い環境下に立地している。設立は平成14年、母体は複合的に福祉を担っている社会福祉法人で、5年前の法人の再編成を経て今日に至っている。建物は民家改修型で二階建ての家屋を改造しユニット9人の生活を支援している小規模な事業所である。当事業所の優れている点の筆頭に、介護の基本、接遇の徹底を挙げたい。職員のほぼ全員が介護福祉士等の資格を有している点も特筆されるが、その有資格者を人事考課制度を活用しながら、自己目標と自己評価、他人評価を3~6ヶ月の期間で行い、常に対人援助の原点を忘れないように努めている。目標を持った取り組みも注目したい。食事の内容を写真等で全員で確認し、利用者にとっての食事となっているかを見つめ直し、成果が出れば新しい目標を設定するなど、常に課題と向き合いながら新しい問題点に職員全員で取り組んでいる。民家改修型という不便な造りも見られるが、それらを含め小規模だが温かさのある介護を実践している当事業所、福井倶楽部に今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は月に一度唱和しておりホーム内数ヶ所に掲示している。家庭的な雰囲気や個性を大切にしている。	事業所の意義を踏まえた理念を、事業所内に掲示しており、また月1回朝礼時に唱和し、職員間で共有している。新規採用職員には、各ケア場面の実践を通じて理念を具体的に伝え、事業所の目指す基本線の理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの為町内会の行事もなく交流はなかったが、近所の方から野菜や果物を頂いたり管理者1名町内会の公園掃除に参加した。	事業所の行事、定例の焼肉大会等に近隣の住民を招いたり、町内の夏祭りに参加する等、相互で積極的に交流を進めている。事業所ですべてのお便り「みんなのいえ」を町内会にも回覧し、理解促進に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧板にホームの広報誌を入れ活動の様子をお知らせしている。今後広報誌を通して認知症の知識等広められるよう努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は行ってない。11月に会議の参加者に電話や書面で活動の報告を伺った。当面は電話や書面で活動や意見を伺っていく予定。	家族代表や町内会役員、包括センターの職員の参加を得ながら定期に開催し、議事内容も行事報告からヒヤリハットまで及んでおり、議事録も家族あてに送られ、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は札幌市主催の管理者会や集団指導等全て中止の為密に連絡を取る機会がなかった。	札幌市が主催する研修やGHの管理者会議等々には積極的に参加し、また日頃から介護の更新申請等、集団指導や実施指導でも運用や解釈について指導を受け、情報交換に努めながら信頼関係が維持・継続できるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回身体拘束等適正化の為に対策検討会議を行っている。日常的に不適切なケアについてのチェックや確認をしており身体拘束や抑制を行わない対応をしている。玄関は建物の構造上施錠している。	身体拘束等適正化委員会を設置し、指針を定め3ヶ月毎に定期的に委員会を開催している。議事内容は、日頃の介護の検証と検討であり、また直近の会議で職員にも周知徹底し、常に日頃の実践を振り返りながら、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会は適正に開催され、密度の濃い議事内容を高く評価したい。今後は委員会の議案や拘束等の研修記録、閲覧した関係書類について、離散しないように一冊にまとめ、いつでも検証できるような環境整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	11月4日に高齢者虐待防止推進研修会受講。接遇や不適切ケアのチェックや他者評価を定期的に行い各自の気づきの機会にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会を設ける事が出来なく現在活用もしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が十分な説明を行い理解、納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に管理者が苦情の窓口や機関の説明をしている。面会時や電話で要望を伺ったり近況の報告や相談は随時行っている。	お便り「みんなのいえ」を発行して利用者の生活の様子を家族へ伝えている。また事業所のサービスや職員の態度についても、家族宅へアンケート調査を実施して検証し、サービス向上に役立っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外にも日常的に職員の意見を聞く機会を設けている。年2回法人本部との面談や月1回法人の運営会議あり。	人事考課制度を導入しており、管理者との面談の他に、本部役員や総務課長との面談もあり、また会議や申し送り時に活発な意見交換がなされ、意見や提案を聴取し、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、昇給制度 寒冷地、年末年始手当等あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナの為外部研修は控え1つのみの受講。内部研修も人数や回数を控え最小限で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナの為交流する機会が全くなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に関わらず時間をかけながら常時信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族のこれまでの関係にも配慮しこまめに連絡を取り不安がある時は時間をかけて話を伺う等して関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の必要とされている支援を確認しケアプランに反映させている。他のサービスの利用はない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを尊重し出来る事を見極め出来る事は一緒に行い助け合いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為面会は中止している。テレビ電話の活用や写真を送ったりこまめに近況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会や外出が出来ない状態なので関係が途切れない支援は行えていない。	利用者の生活地が市内一円であり、馴染みの場所や親しんだ所への訪問は家族にお願いし支援している。馴染みの家財や懐かしい家族写真等は自室に持ち込む等々、和めるように大切に維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しお互いの立場を考慮しながら関り合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に何か相談等あればいつでも対応出来る事はお伝えしている。最近はその様な事例はないが、以前は退居後ホームに来てくれた家族がいたり退居後も年賀状のやり取りをしている家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや話した事等職員間で情報を共有し本人本位の対応に心掛けている。	毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。看取りの関係もあり、普段より最後の居場所についても聞き取り、より本人本位の生活になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人の言葉やご家族からの情報をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の観察や定期的に行うアセスメントにより把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で本人の意向や課題をもとに話し合っている。	ケア会議でモニタリング等を検討し、本人や家族の意向を据えながら介護計画を作成し、短期目標を設定している。介護日誌には、新たに考案した記録票も活用し、短期目標への日々の把握を円滑化している。新様式の記入も慣れ、適切に対応できる様になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化は記録できており職員間で情報を共有している。ケアプランに基づいた記録になるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が出来るよう努めているが、今他のサービスの利用をしている方はいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族と協力しながら安全で自立した暮らしができる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いまいホームケアクリニックの往診を月2回受けており定期往診以外にも特変時は報告や相談をしている。それ以外に本人や家族の希望で他科受診している方もおり適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は利用者や家族の意向を中心に決めているが、看取り体制や普段からの安全性を考慮し往診や訪看が可能な協力医への変更もお願いしている。協力医療機関とは24時間オンコールであり、安心できる適切な医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員や系列施設から週に1回来る看護師に都度相談、報告をし情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は該当者なし。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	定期的にご家族や本人に意向を伺っている。ADLの変化時は都度ご家族に報告、相談しているが今年度は対象者はいなかった。今年度中に看取りの勉強会を行う予定。	看取り介護については積極的に対応し、職員研修も定期的に行い、利用者の希望に沿えるよう努めている。また看取りを含め幾つかの選択肢を家族と医師を含め検討し、利用者にとって最適で適切な介護となるよう臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を自粛しており訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上災害時の訓練を行っている。新入職員対象の訓練を近日予定している。	年2回、消防署の指導により火災や地震対応の避難訓練を実施している。また法人本部の全面的なバックアップ体制もあり、災害用の食料等備蓄品や停電用の冬季暖房機材も準備し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持った対応に心掛けている。接遇や不適切ケアのチェックや他者評価も行っている。	介護の基本は接遇であり、定期的に自己チェックと他者評価を行っている。具体的には、赤ちゃん用語、見下した言葉掛け等のNGワードを常に確認し、礼節ある介護を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの性格や出来る事を踏まえ自己決定出来る場面を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いやペース優先し本人の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみや行事の時等おしゃれが出来るよう支援している。お化粧の希望がある方は都度行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	都度メニューの見直しをして改善したり新しいメニューを増やしたりしている。利用者と一緒に食材切りや盛り付け等会話をしながら楽しく行っている。	食事は味や外観も重要視し、写真等で職員同士が過不足を検討した結果、充実が見られ満足する現状である。また外食も定期的を実施し、回転ずしや焼肉店、喫茶店と多様で、利用者の好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形態や盛り付けの工夫をしたり一人ひとりの状態に合わせて提供している。時間をずらしたり他の物で代用するなど柔軟な対応も出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助を行っている方の口腔内の状態は把握出来ているが自立している方の状態は把握出来ていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し都度尿量や皮膚状態に合わせたパットの検討を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者ひとり一人に合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や水分摂取量の観察や適度な運動の促しで便秘予防に心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日の中で週2回入浴出来る様に対応している。希望者は曜日を固定している。現在1名曜日を固定している。	入浴について毎日がお風呂の日としてお湯を準備し、一日に2～3人程度の入浴のため、ゆっくりと話し合い笑い合いながら、また曜日固定者も希望により設けており、個人に沿った入浴支援を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが眠くなった時間に寝ていただいたり寝具を調整する等工夫している。日中もソファで自由に寝ていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は各自ファイルに綴じてすぐに確認出来るようになっている。薬が変わった時は職員に伝え観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った活動や余暇を提供しているが買い物や外出が出来なかった分他のことで工夫していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は近所の散歩以外の外出は出来なかった。	季節のドライブには本部からの車両を使い出かけており、また事業所の前が公園であり、天候による格好の散策路となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は全員こちらでお預かりしてはお小遣い程度のお金を自分で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方1名。その他の方は希望時電話をかけたたり定期的にテレビ電話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物を飾ったり、居間からの景色で四季の移り変わりを楽しめている。音や温度に配慮し家庭的な雰囲気を大切にしながら過ごしている。	民家改造型で居間兼食堂は2階となっており、1階にも多くの居室があるため離設等の防止のため、全家族の了解のもと、玄関は常時施錠状態となっている。2階からの眺望は素晴らしく、3方の山々が見せる四季の移り変わりは、利用者だけではなく訪れる家族にも楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の席やソファの配置等は利用者のADLの変化や対人関係を考慮し都度状況に合わせて環境整備をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ってきてもらっており居心地よく過ごせるようにしている。頻繁に自室の模様替えをしている方もいる。	居室は在宅当時の日用品や家具が持ち込まれ、位牌に毎朝手を合わせる事も在宅当時の習慣であり、家族の写真を飾るなど個々に居心地の良さに工夫が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを使って自力で階段昇降や廊下歩行をしたり貼り紙で場所を理解していただいている。都度危険な箇所は修理しており今年度は1ヶ所段差の工事をした。		